

2 各団体の取組

団 体 名	取 組 の 概 要
愛知県小中学校長会	<p>県内小中学校に対して、食に関する調査を実施し、それを基に学校における望ましい食に関する指導の在り方や学校と家庭との連携強化などを啓発する。</p>
愛知県小中学校PTA連絡協議会	<p>① 日本PTA全国協議会主催による全国規模の「早寝・早起・朝ごはん国民運動」に呼応して、この運動に取り組む。</p> <p>② 平成22年度の活動方針1「家庭教育力の強化を図ろう」の一つとして、食育を取り上げ、会員の家庭における食育の啓発活動を展開する。</p>
(財)愛知県学校給食会	<p>① 地場産物を活用した学校給食用物資の研究・開発、供給を行う。</p> <p>② 学校や家庭への食に関する情報の提供を行う。</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>③ 学校給食調理コンクール</p> <p>学校給食における衛生的で安全な食事内容の充実と献立の多様化を図るため、学校給食関係者による調理コンクールを開催し、調理技術の研さんと意欲の高揚に資する。</p> <p>実施日：平成22年8月3日</p> <p>場 所：愛知県学校給食総合センター（豊明市）</p> <p>対 象：栄養教諭、学校栄養職員、調理員</p> <p>④ 学校給食教室</p> <p>学校給食と食育について保護者の認識を深め、家庭との連携を図りながら、より一層の理解を得る。</p> <p>実施日：平成22年11月（4日間開催予定）</p> <p>場 所：愛知県学校給食総合センター（豊明市）</p> <p>対 象：県内小中学校の児童生徒の保護者</p>
愛知県栄養教諭学校栄養職員研究協議会	<p>① 「朝食をしっかりと食べよう」を県内統一テーマにし、食に関する指導を実施</p> <p>本協議会は「朝食をしっかりと食べよう」を県内統一テーマにし、学校・家庭・地域を対象に直接指導または間接指導を行い、朝食欠食率を小学校は3割以下をめぐす（栄養教諭配置校は朝食欠食率ゼロ）。</p> <p>〔具体的な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育の講話・講演会の実施 ・ 料理教室の開催 ・ 学校給食試食会の開催、教育セミナーの実施、フェスタの開催、個別指導 ・ 教科での授業・栄養指導の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・食育だよりの発行、献立表、学校放送、ポスターの作成 ② 「食文化の伝承」を県内統一テーマにし、郷土の食文化を啓発する 「地場産物」「郷土食」「行事食」「伝統食」を学校給食の献立に取り入れるだけでなく、食育だよりや料理教室等で広く家庭・地域に紹介することで意識を高めるとともに、目標値（35%以上）を達成した学校給食における愛知県産地場産物の使用割合をさらに上昇させる 〔具体的な取組〕 ・平成20年度本協議会が製作した地産地消マップを全会員が様々な啓発活動に使用して、愛知県産地場産物の普及に努める。 ・平成21年度に製作した、県内の各市町で実施されている学校給食における郷土食のレシピ集を収めたCDを活用して全会員が学校給食の献立に取り入れる。 ・22年8月の研究大会において食文化研究者を招いて「食文化シンポジウム」を開催し、全会員の資質向上をめざす ③ 実態調査 栄養教諭・学校栄養職員を対象として、衛生管理・学食連携・食事環境・食に関する指導・個別指導・食物アレルギー等さまざまな角度から実態調査を行い、問題点を把握し、問題解決に向かっての支援を行う。
<p style="text-align: center;">愛知県公立幼稚園長会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 各幼稚園で野菜を栽培をし、収穫した野菜を味わいながら、食に関する体験を深める。 ② 親子で栽培活動をし、旬を感じたり食を通じたコミュニケーションを図ったりする。 ③ 弁当や給食を通して、バランスのとれた食生活の大切さを啓発する。 ④ 講演会や保護者会において、食育の大切さを啓発する。
<p style="text-align: center;">(社)愛知県医師会</p>	<p>肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病の予防等について、県民への健康教育講座を開催する。</p>
<p style="text-align: center;">(社)愛知県歯科医師会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 乳幼児期から高齢期まで、ライフサイクルに応じた食育について、あらゆる場と機会を通して、セルフチェックカードとリーダーチャートを活用し、口腔の健康を守り五感で味わえる食べ方ができる食育を推進します。 ・リーダーチャートの構成要素（1.歯・口の要素、2.口腔衛生週間、3.食生活・食機能の要素、4.食環境の要素） ② 愛知県教育委員会と小中学校養護教諭との連携を図り、食育推進学校歯科医を養成します。 ③ 4月にナゴヤドームで開催される中日新聞社「アクティブシニアフェア 2010」において中高年の健康について食育推進することで健康長寿を目指す啓発活動を検討しています。（予定）
<p style="text-align: center;">(社)愛知県薬剤師会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 店頭におけるバランスのとれた食生活実践の啓発 ・運動とバランスのとれた食事の重要性の意識付け ・規則正しい食事の重要性の啓発 ・食事バランスガイドの普及、NR（栄養情報担当者）の配置等

<p>② 学校薬剤師による「くすり（健康食品を含む）の話」</p> <p>③ 健康介護まちかど相談薬局による地域に密着した相談業務</p> <p>④ 食育に関わる薬剤師の育成 様々な活動・機会を利用して食育に関わる薬剤師を育成していく。</p> <p>⑤ 「あいち県民健康祭」への出展（予定） 実施日：平成22年9月18日（土） 19日（日） 内 容：健康食品摂取の注意点を啓発</p> <p>⑥ 愛知健康プラザのイベント開催（予定） 実施日：平成22年11月21日（日） 13時30分～ 場 所：あいち健康プラザ宿泊館2階会議室 内 容：「薬剤師の話す食育の話」</p> <p>⑦ 食養生に関する冊子の作成・改訂・配布（予定、配布先：会員）</p> <p>⑧ 家庭介護者等養成研修企画研修への講師派遣（県内23か所予定） 内 容：講演「高齢者が薬・健康食品と上手につきあうために」</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>⑨ 「みなと介護フェア」へ講師の派遣（予定） 平成22年11月14日（日）に開催（予定）される「第7回みなと介護フェア」の親子料理教室に講師を派遣し管理栄養士に協力して食材に含まれる栄養素（ビタミンや食物繊維等）の体への効用を説明する。</p>	<p>一般県民向けに「食生活指針及び食事バランスガイド」を基本として各種の食育推進活動を展開する。</p> <p>① 「あさいち栄養相談」の実施 実施日：毎月第2・第4土曜日（9時～12時） 場所：オアシス21銀河の広場 内 容：えこふアーマーズ朝市村において「栄養相談」を実施</p> <p>② 「保育クッキング講座」の開催 保育関係者を対象に食育のためのクッキング講座を開催する。</p> <p>③ 「ヘルシーセミナー」の開催 県民公開講座として話題の多いテーマで調理実習と講義をセットとして開催する（3回予定）。</p> <p>④ 各種の食育イベントへの参加・推進 ・各種機関・企業・団体の食育関連事業やイベントに参加して食育の推進をする。 あいち県民健康祭、アクティブシニアフェア2010、名古屋食フェスタ等</p> <p>(社)愛知県栄養士会</p>
--	---

	<p>・健保組合等の「健康づくり教室」「栄養相談」「食事バランスガイド実証事業」に参加する。</p> <p>⑤ その他 食育のうた「お腹がグー」「簡単おやつレシピ」等の普及・啓発事業を継続・展開する。</p>
<p>(財)愛知県健康づくり振興事業団</p>	<p>① 健康づくり教室において、実習型の食生活指導を行い、好ましい食生活の実践を継続できるよう支援する。</p> <p>② 健康科学館において、タッチパネルで操作できる「栄養バランス診断」や食材データの解説等の常設展示を行うほか、団体の利用者には、事前の希望により、食事、栄養、休養等といったテーマで健康教育を実施する。</p> <p>③ 親子食育教室を開催し、食事作りの実践と各テーマに関する講話を行い、食事の興味へのきっかけづくりの場を提供する。</p>
<p>愛知県食生活改善推進員連絡協議会</p>	<p>① 各市町村で食生活改善推進員の養成をしていただき、実践を通してさらに知識・技術・ボランティア精神をしっかりと身につけて地域で活動する。</p> <p>② 「健康日本21」の実践者、ヘルスサポーターを養成する「ヘルスサポーター21」事業に取り組む。</p> <p>メタボリック症候群対策を中心に、運動習慣の定着化、食習慣の改善を徹底し平成22年度の目標を推進する。</p> <p>修了者が実施地区単位で「ミニヘルスサポーターの会」を誕生させ、一次予防対策に取り組み、個人の健康づくりを励まし合いながらすすめていく。</p> <p>③ 各市町村協議会で「うす味習慣の定着化運動」や「子供のための食育活動」「運動習慣の定着化活動」「男性・高齢者の自立のための食育講座」を地域のニーズに応えて実践する。</p> <p>④ 平成20年度から始まった特定保健指導に市町村食生活改善協議会として協力をする。</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>⑤ 「子供のための食育」活動として市町村協議会で、保育所等で推進する。</p> <p>1. 食べ物を選ぶ力 2. 食べ物の味がわかる力 3. 料理ができる力 4. 食べ物のいのちを感じる力</p> <p>5. 元気なからだがわかる力</p> <p>⑥ 「親子の食育推進教室」の開催</p> <p>⑦ 「男性のための料理教室」の開催</p> <p>働き盛りの男性・定年退職後の男性へ、自立支援・生活習慣病の予防のための教室を開催し、共に楽しく料理すること・美味しく食べることを通して、食生活改善に意識を持っていただく。</p> <p>⑧ 「高齢者のための低栄養予防教室」の開催</p> <p>⑨ 郷土料理、地産地消、食の文化の意識を常に持ち事業を計画し開催する。</p>
<p>(福)愛知県社会福祉協議会保育部会</p>	<p>① 各保育所において、給食を通して食習慣指導や農業体験等を実施する予定である。</p> <p>② 愛知県社会福祉協議会 保育部会の実施する「保育所長研修会」等で「食文化につながる食育への取り組み」について、研究協議を行う予定である。</p>

	<p>③ 平成 22 年 7 月 15・16 日に石川県で開催される「第 51 回東海北陸保育研究大会」に代表を派遣し、分科会において食育推進の研究協議を行う予定である。</p>
<p align="center">愛知県農業協同組合中央会</p>	<p>① 県内 J A において「J A 食農教育プラン」の策定・実践に向けた取り組みをすすめる。</p> <p>② 県内 J A で取扱う農産物について、使用した農薬・肥料などの生産履歴の記載を徹底する。</p> <p>③ 体験を通じた食の理解を促進するため、各 J A において農業体験教室や地元農産物を使った料理教室を開催する（女性組織と連携）。また、パケツ稲づくり等の家庭での作物栽培の取り組みを推進するため、パケツ稲づくりセットを無償配布する。</p> <p>④ 食育の普及・啓発として、次の資料を作成・配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業教育用資料「愛知の農業」を作成し、県内の全小学校 5 年生に配布する。 ・ 農産物直売所情報誌「フレ（愛知県版）」を編集発行し、J A を通じて J A 施設や公共施設等へ配置・無償配布する。 <p>⑤ 栄養教諭・学校栄養職員を対象とした圃場見学会を開催する。</p> <p>学校現場における食育活動のコーディネーターである栄養教諭・学校栄養職員を対象として、生産現場の視察等を通じた相互交流を深め、J A グループ愛知が取り組む食の安全・安心に対する意識並びに食材の旬等への理解を深めるものとする。特に、平成 22 年度は各 J A 段階での圃場見学会の開催を推進する。</p>
<p align="center">農村輝きネット・あいち</p>	<p>① 「輝きネット・あいちの技人」（農村輝きネット・あいち認定）が郷土食の継承活動や地元農産物の加工の加工に取り組む。</p> <p>② 「輝きネット・あいちの技人」認定式</p> <p>実施時期：8 月から 9 月 場所：愛知県立農業大学校 対象：グループ員</p> <p>内 容：郷土食や地元農産物の加工等、農村に伝わる技術や文化を地域の住民や子供たちへ継承することのできる人を「輝きネット・あいちの技人」に認定する。</p> <p>③ 農とくらしの研究発表大会 2011</p> <p>実施時期：1 月 場所：愛知県立農業大学校 対象：グループ員</p> <p>内 容：他グループの優れた活動状況を知ることにより、自分たちの活動を見直し、今後の活動を充実させる機会とする。</p>
<p align="center">愛知県酪農業協同組合</p>	<p>① 愛知県内の酪農家が地元の小学生の受け入れを推進する。また、中学生の職場体験の受け入れを推進する。</p> <p>② 地域の催事に参加し、その場を利用して酪農の理解を呼びかける活動を行う。</p> <p>③ 近隣に牧場のない市町村の小学校等に出前事業を行う。</p> <p>④ 大きな催事に参加し、酪農理解醸成のイベントを行う。</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>⑤ 父の日に牛乳を贈ろうキャンペーン(予定)</p> <p>お父さんへのメッセージを募集し、応募者の中から優秀作品に対し、乳製品等を贈ります。また、6 月 1 2 日（土）に最優秀者</p>

	<p>の自宅の着ぐるみ牛が訪問し、乳製品を届けます。</p> <p>⑥ 酪農教育ファーム農家によるオープンファームデー（予定） 愛知県内の酪農教育ファーム20戸の農家にて、6月1日の牛乳の日前後2週間の中で、日時を指定してそれぞれ一般の消費者を牧場に受け入れる。</p> <p>⑦ 畜産フェスタ（予定） 畜産団体共同で行う。酪農としては搾乳体験や子牛のふれあい、そして牛乳におけるの理解醸成を行う。</p> <p>⑧ 地域農業祭り等にて、牛のふれあいと子牛のスケッチの実施 4月29日 阿久比町 9月 豊田市 10月16日 西尾市 11月21日 田原市 12月4、5日 愛西市</p> <p>⑨ わくわくモーモースクール 子牛のふれあい等（予定） 6月19日 豊田 他6月中にもう1ヶ所 10月に2ヶ所</p>
<p>愛知県漁業協同組合連合会</p>	<p>① 「2月6日」海苔の日にチャリティーを開催 本県産「海苔」の美味しさについて知ってもらい、消費拡大を図るとともに漁船海難遭見支援を目的としてチャリティーを実施</p> <p>② 魚食普及のための情報提供を行う。</p> <p>③ 地域の農林水産祭に出品し、魚食普及を図る。</p> <p>④ 料理講習会の開催や、都市、漁村青年交流会を実施する。</p>
<p>愛知県食品産業協議会</p>	<p>地域の農業者と商工業者が連携して、その地域ならではの食材を活用した新商品開発に取り組み、地産地消や地元の特産物を再認識する動きにつなげる。</p>
<p>日本チェーンストア協会中部支部</p>	<p>① 「みんなでごはん」等テーマを決めた店頭での親子が参加できるイベントを通して、作ることの楽しさを体験していただく。</p> <p>② 店頭などで募集した親子参加による体験学習の実施やクッキング工房、料理教室などを通してバランスの良い食事メニューを紹介する。</p> <p>③ ホームページやフリーペーパーを使った旬の食材を活かしたバランスの良い食事メニューを紹介する</p> <p>④ 食育フォーラムやシンポジウムの開催を通して食育の大切さを普及促進する。</p>
<p>愛知消費者協会</p>	<p>① 消費者と生産者との交流・見学会を実施して意見の疎通を図る。</p> <p>② 機関誌を発行（年4回）し、エコクッキング等の啓発に努める。</p> <p>③ お米の良さを見直し、バランスの良い食生活、残さの少ない調理法など啓発する。</p> <p>④ 各支部に食に関するチラシ等を配布し、啓発に努める。</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>⑤ シンポジウム、学習会</p> <p>・アンケート調査、結果に基づくシンポジウム（7月）</p>

	<p>・シンポジウム (11月)</p> <p>⑥ 食のゼミナール</p> <p>生産者と消費者で良い食品を生み育てることを目的に開催し、食品の生産から消費者の食卓にあがるまでの過程について講師を迎えて勉強する (1月予定)</p>
<p>生活協同組合コープあいち (旧 名古屋勤労市民生活協同組合)</p>	<p>① 親子クッキング、子どもたちの初めてクッキングを開催します。 親子クッキング、初めてクッキングなど各地域で展開し、子どもたちが食材を知り、料理をつくることを通して、食事のバランスを考え、食の大切さを学びます。</p> <p>② たべる*たいせい*クッキング (食育プログラム) の実施 毎日のくらしのなかに、食に興味をもち、考えるきっかけはたくさんあります。そんなふだんのくらしの中に、ちよっとしたキッカケを提供することをめざしています。通信型食育プログラム*たいせい*クッキングをを広げていきます。</p> <p>【重点的な取組】</p> <p>③ 「あいちを食べよう 日本の食をたいせいに！」をテーマに、食育の取り組みを進めます。 お米づくり体験交流は、愛知県のJAあいち海部、JAあいち豊田、JAあいち中央、JAあいち三河などの皆さんと取り組みます。収穫体験や生産者との産地交流、学習会や地元食材を使った料理教室など10万人以上の参加を計画します。 4月にJA豊橋園芸・大葉、JAあいち中央・きゅうり、5月にJAあいち豊田・人参、JAあいち中央JAあいち知多・たまねぎ等々を毎月企画します。7月末から8月上旬では、豊橋と知多で加工トマトの収穫体験とトマトケチャップづくりを行います。</p> <p>④ 食料自給率向上の取組 水田のフル活用、耕畜連携の取組、資源循環型の取組として、飼料稲・米を栽培し飼料として牛豚鶏に給与します。飼料稲の栽培→籾米を採卵鶏に給与→卵→消費者へ→鶏糞堆肥化→耕種農家へ。新規需要米としての米粉を活用したパンなどを開発します。</p> <p>⑤ 天ぷら油で車を走らせます 菜の花エコプロジェクトで菜の花を栽培し搾油し菜種油を精製、生協のお店で揚げ油として使用、使った油を廃油として回収、バイオディーゼル燃料として精製、生協の配送車を走らせます。</p>